

神の国について③再臨(2)

ルカの福音書17:20-37
2013,10,27 HKJCF

概観

序)①ニヒリズムとコントロール不能②祝福・惑わし・災い③ノア・ロト・ポンペイ

- 1、聖書の歴史観
- 2、主要な歴史観
- 3、歴史の終焉・文明の衝突・接近
- 4、再臨問題と私たちの祈り

I 聖書の歴史観

- 1、歴史とは →資料+歴史観(解釈)
→意味・主体/動因・責任
- 2、救済史・啓示・正統的解釈
- 3、直接啓示としての創世記と黙示録
- 4、聖書の歴史観 創造・墮罪・再創造
- 5、近代以前の地理・歴史解釈の限界
⇒①ギリシャ的世界観による聖書解釈
②近代以降の異端の可能性
③聖書の正統的解釈による歴史観

II 主要な歴史観

- 1、仏教・ギリシャの歴史観:運命・循環論
- 2、近代啓蒙主義:直線・進歩・無限
- 3、マルクス・ウェーバー:動因・下/上構造
- 4、文明史:衰亡・類型・関係
- 5、実証主義とポストモダン
⇒①理性中心の歴史観の混乱・無意味化
②歴史の「大きな物語」の終焉?
③19C:進歩 20C:戦乱 21C:宗教再興

III 歴史の終焉・文明の衝突・接近

- 1、「歴史の終焉と最後の人」F. Fukuyama
冷戦後→欧米化とニヒリズム
- 2、「文明の衝突」S. Huntington 9.11後
→アラブ・中華文明/中核と周辺
- 3、「帝国以降」/「文明の接近」E. Todd
→核の平和、アラブの接近、日ソ・日独
- 4、最後の時代:ニヒリズム、コントロール不能の人間・世界・地球、文明の衝突?
⇒新しい人間と世界の新創造

IV 再臨問題と私たちの祈り

- 1、再臨運動・リバイバル/分裂・弾圧
- 2、戦後の「福音派」の躍進
- 3、再臨信仰の軽視←→分裂・異端
⇒①イスラエルへの関心の高まり
②正統的聖書解釈による再臨信仰へ
「人生も地球も神様なしにはコントロール不能です。主よ、来てください、私たちのところに、この世界に。」 黙示22:1-7,16-17